



作物をエサにするアザミウマ類は国内で44種知られており、中でもミナミキイロ、ネギ、ミカンキイロ、ヒラズハナ、チャノキイロアザミウマの5種は農作物に大きな被害を及ぼします。利根沼田地域でもこの5種は野菜や花きで確認されます。アザミウマ類は微小で新芽や花の中などの隙間を好むため低密度で発生している時には発見が困難です。吸汁によって作物の外観を損なわせるだけでなく、ウイルス病も媒介します。そこで今月号では、昨年被害が多かったアザミウマ類の特徴を紹介します。

1 ミナミキイロアザミウマ

成虫(雌)は体長1.2～1.4mm。黄色く、羽をたたむと背中に黒いすじがあるように見えます。寒さに弱く、利根沼田地域では越冬できないと考えられます。ナスやピーマン、ウリ類が好物で黄化えそウイルスを媒介します。その他レタスなどキク科の野菜、マメ科、ホウレンソウなどを加害します。



写真1
ミナミキイロ
アザミウマ

2 ネギアザミウマ

成虫(雌)は体長1.1～1.6mm。夏は淡黄色～黄褐色で、冬になると褐色に変わります。暑さにも寒さにも強く、ネギ類だけでなくナス科、ウリ科、マメ科、アブラナ科など幅広く食害し、トマト黄化えそウイルスとアイリス黄斑ウイルスを媒介します。



写真2
ネギアザミウマ

3 ミカンキイロアザミウマ

成虫(雌)は体長1.4～1.7mm。夏は黄土色で冬は茶褐色に変わります。暑さにも寒さにも強く、ミカンだけでなく、ナス科の野菜やバラ科の作物、アブラナ科野菜は食べません。花に対する嗜好性が高いとされ、トマト黄化えそウイルスを媒介します。



写真3
ミカンキイロ
アザミウマ

4 ヒラズハナアザミウマ

成虫(雌)は体長1.3～1.7mm。褐色～黒褐色。短日条件になると卵を産まなくなるため、冬は幼虫が発生しなくなります。野菜類やキクなどで吸汁による被害が大きく、トマト黄化えそウイルスを媒介します。



写真4
ヒラズハナア
ザミウマ

5 アザミウマ類の 防除対策について

アザミウマ類は微小で発見しにくく、薬剤抵抗性が発達しやすいという特徴があるため、薬剤だけに依存しない「総合防除 (IPM)」が重要とされています。

①化学的防除(薬剤防除)

薬剤抵抗性の発達が顕著なため、同系統の連用は避けましょう。地域・作物・種ごとに有効薬剤が異なるため、県防除指針等を参考にローテーション散布をしましょう。その上でアザミウマ類の被害が収まらない場合、特定の種のアザミウマが繁殖している場合があるため、別系統の農薬を散布しましょう。

②物理的防除

赤色ネットや目合いの細かいネットが侵入抑制に有効です。赤色防虫ネットを被覆して育苗したトマト苗は、ミカンキイロアザミウマの寄生頭数が減少することが明らかとなっています。

③耕種的防除(栽培管理)

雑草や作物残渣がアザミウマ類の発生源となるため、ほ場外の除草を行ったり、家庭菜園はほ場の周囲で行ったりしないようにしましょう。発生源を断つことで初期密度を低く抑えることができます。

④生物的防除(天敵利用)

アザミウマ類の天敵は主に施設栽培で利用されるスワルスキーカブリダニやヒメハナカメムシ類や微生物製剤が販売されています。

天敵利用する際は、定着しやすい環境づくりが重要で、物理的防除や選択性薬剤との併用が有効です。

担い手・園芸課 園芸係(中島)